

第5章

難 聴

1. 加齢性難聴に関する支援 Q&A

高齢者の聴覚の衰えによるコミュニケーションの問題や QOL 低下などは身体的フレイルの一つです。難聴により集団の中での会話が難しくなると孤立する傾向があり、社会的フレイルに繋がりがやすくなります。また、難聴により外部からの刺激が少なくなると生活意欲が低下して、精神・心理的フレイルに繋がりがやすくなります。そして、コミュニケーションは相互に行うものであり、本人だけでなく周囲も困惑する場合があります。以下に、加齢性難聴に関する支援について Q&A 形式でご紹介しますので、対象者や関係者の支援にご活用ください。聞こえに対する支援を通して、自立支援やフレイル予防に繋がっていきましょう。

- Q1. 高齢になると、人との関わり方が変わりますか？
- Q2. 高齢になると、コミュニケーション能力はどう変わりますか？
- Q3. 加齢性難聴になると、どんな聴こえ方になりますか？
- Q4. 難聴になると、認知症になりやすいついて本当ですか？
- Q5. 難聴になっても、補聴器をつければ認知症を予防できますか？
- Q6. 難聴が心理面に影響することはありますか？
- Q7. 高齢者が気を付けるべき耳の問題はありますか？

Memo 補聴器トラブルを防ぎましょう！（消費者へのアドバイス）

- Q8. 聞こえの状態をアセスメントする方法はありますか？（資料 1）
- Q9. 生活場面での聞こえの状態を探る方法はありますか？
- Q10. すでに補聴器を持っている方にはどんなことを聞きますか？
- Q11. 難聴者（補聴器装用者）に、一度で聴き取ってもらうためには？（資料 2）
- Q12. 補聴器に興味を持った方に何を伝えると良いですか？
- Q13. 補聴器の購入を決めた方に伝えておくことはありますか？
- Q14. 補聴器を実際に使いこなすまでにはどのくらいの期間が必要ですか？
- Q15. 補聴器の購入に関する福祉制度はありますか？

Memo アフターコロナにおけるコミュニケーション

参考・引用

資料 1～2

Q1. 高齢になると、人との関わり方が変わりますか？

A. 高齢者は、加齢に伴うライフステージの変化から、人との繋がりが少なくなりやすいといわれています。

2017年に報告された「生活と支え合いに関する調査」では、会話頻度の変化として、60歳代未満では、普段の会話（人とあいさつ程度の会話や世間話）を「毎日行う」割合は95%ほどですが、年齢が高くなると徐々に減少していきます。

世帯タイプ別でみると、高齢の夫婦世帯が、普段の会話を「毎日行う」割合が「89.3%」に比べ、高齢の単身世帯では、男性で「49.5%」、女性で「61.1%」と明らかな減少が見られます。さらに、高齢の単身世帯は、「日頃のちょっとした手助けで頼れる人がいない」と答えた人の割合が、男性が30.1%、女性が9.1%と非常に低くなっています。

※2020年いわき市の総世帯数に占める「高齢者のみ世帯」の割合が31.4%、「高齢者単身世帯」の割合が18.9%であり、年々増加傾向にあります。

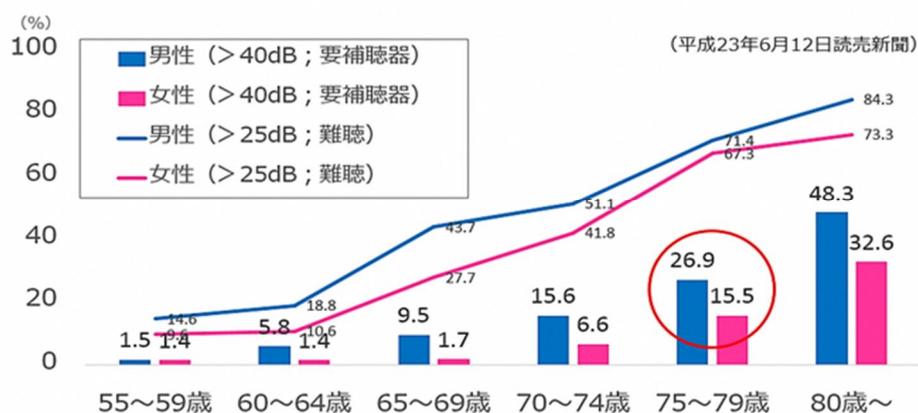
Q2. 高齢になると、コミュニケーション能力はどう変わりますか？

A. 高齢者は、加齢に伴う身体機能の変化から、加齢性難聴を呈する割合が多くなると言われています。

年齢別の難聴発症率の調査では、軽度以上の難聴※を呈する割合は、「65歳までは1~2割程度」ですが、「75歳以上になると約7割程度」まで増えると報告されています。さらに、難聴のみならず、聞き取ったことばを読み取り、頭で正しく理解するためには、「注意力」、「記憶力」、「推論」なども必要です。「語彙」など言語能力に関するものは、60歳頃まで上昇して、その後も大きく低下しない一方、「注意力」や「記憶力」、「推論」などは、加齢に伴って低下することが報告されています。

※軽度の難聴とは、「小さい声が聞き取りにくい」、「騒がしい中だと相手の声が聞き取りにくい」、「複数の方との会話がしにくい」などの訴えがある状態です。周囲の人からは、「テレビの音量が大きい」、「聞き返されることが増えた」などを指摘される場合があります。

65歳以上で難聴のある方は1500万人



75歳以上の男性：4人に1人（女性：6人に1人）が補聴器が必要とされている

Q3. 加齢性難聴になると、どんな聴こえ方になりますか？

A. 「聞こえているけど、何と言っているか分からない」のが特徴です。聴力の加齢的变化によって、感音性難聴（かんおんせいなんちょう）を呈し、音が小さく聞こえ、さらに歪んで聞こえてしまうため、ことばの聞き取りが難しくなることが原因です。その他、高い周波数の聞き取りが難しくなるため、「さ」行や「は」行などの音を聞き間違ってしまうたり、快適に聞こえる範囲が狭まってしまうため、小さい音は聞こえない割に、大きい音はうるさく感じてしまいます。

Q4. 難聴になると、認知症になりやすいつって本当ですか？

A. 2020年、世界的に権威のある医学誌ランセットが、「認知症の40%は、予防可能な12の因子により起こると考えられ、その中で影響が最も大きいのは難聴」と報告し、社会的にも注目されました。影響が大きいものをいくつか挙げると、中年期(45~65歳)の難聴(8%)、小児期の教育期間の短さ(7%)、高齢期(65歳以上)の喫煙(5%)、抑うつ(4%)、社会的孤立(4%)などが挙げられます。

このような難聴と認知症が関連する研究は数多く報告されており、「中高齢期の難聴は、認知症発症の危険因子である」といえます。難聴による影響を具体的に挙げると、長期的に音の刺激や脳に伝わる情報量が少なくなると脳の萎縮や神経細胞が弱まりやすく、コミュニケーションがうまくいかずに人との会話が減ると抑うつや社会的孤立のきっかけとなりかねません。さらに、高齢者は複数の慢性疾患を有していることが多く、糖尿病や動脈硬化、喫煙習慣などの微小循環障害を進行させる状態は、難聴と認知症の双方にとってリスクとなります。

Q5. 難聴になっても、補聴器をつければ認知症を予防できますか？

A. 前述したように、多くの病気の発症に共通する複数の慢性疾患を有する場合は、難聴への介入のみで認知症の発症を阻止できません。少しずつ補聴器装用と認知症予防に関する報告は増えてきておりますが、「補聴器をつければ認知症を予防できる」といった医学的に強い根拠を持った結果は、十分に得られていないのが現状です。しかし、補聴器は難聴を補うために非常に有効な手段であり、補聴器を付けることでコミュニケーションが改善され、生活の中でできることが増えれば、QOLも向上します。

さらに、聴こえやすくなることで会話が增えることで抑うつ感や孤立感が解消されたり、生活意欲が高まることで運動不足が解消されたり、日常生活の好ましい変化が得られた場合は、広い意味で認知症予防につながる可能性があります。そのため、難聴のある高齢者が補聴器を正しく活用するためにも、地域のネットワークを通して正しい理解を深めていく関わりが奨励されます。

Q6. 難聴が心理面に影響することはありますか？

A. 加齢性難聴は、足腰や目の衰えと比べて、周囲の人から見えにくい困りごとのため、周囲も気付かないまま対応が遅れてしまう場合が多く見られます。また、徐々に難聴が進行するため、本人も無自覚な場合があります。周囲から認知機能を過小評価されてしまうこともあります。そのような結果、本人にとっては深刻なのに、周りに不自由さがよく分かってもらえなかったり、間違った評価によって精神的に傷つけられたりすることにつながりかねません。

その他、聞こえなかったのに分かった振りをしてしまいがちなこと、聞き間違いなどの失敗経験から会話に消極的になってしまうことなど、人それぞれにさまざまな影響があると理解して関わるのが大切です。

Q7. 高齢者が気を付けるべき耳の問題はありますか？

A. 高齢者の中には、耳垢が詰まることによる聴力の低下をきたすことが少なくありません。家庭で耳かきをする時に、奥までいじりすぎて逆に耳垢を押し込んでしまったり、強く拭いたりすると耳の穴の通路(外耳道)を傷つけるおそれもあります。その他、加齢による耳と鼻をつなぐ管(耳管)の機能低下が原因で滲出性中耳炎を呈することがあり、聴力の低下に加えて、耳がつまった感じが見られることがあります。適切な治療により症状の改善も見込めるため、耳鼻科受診が奨励されます。

また、難聴以外にも、めまいや耳鳴りなどが何度も続いて生活に支障をきたす場合などは、耳以外の病気の可能性にも注意が必要です。

そして、耳が遠いことで車や自転車が近づく音などに気付けない様子があれば、危険察知が不十分になり、転倒のリスクも高まります。

さらに、地域住民が、適切な補聴器の購入とメンテナンスの必要性について理解できていない場合が多いことから、購入時のトラブルにつながる事例も報告されています。

Memo 独立行政法人国民生活センター「補聴器トラブルを防ぎましょう!」より抜粋

補聴器は、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」により管理医療機器に分類され、フィッティングと呼ばれる購入前・購入後の聞こえの調整や定期的な清掃などのアフターケア等、販売側の専門性やメンテナンス体制も購入・契約する際の重要なポイントとなります

また、「聞こえ」の状態は個人で異なり、補聴器には様々なタイプがあることから、「聞こえ」や「使いやすさ」が自分にあった機器か、しっかり確認して選ぶことが大切です。

(1) 聞こえにくいと感じたら、まず専門家の診断を受ける

普通の会話が聞こえにくいと感じた時は、まず、自分の「聞こえ」や耳の状態を正確に把握する必要があります。補聴器を購入する前に、自分の「聞こえ」の状態、補聴器が必要な状態か、治療による改善は見込めないかなどについて、専門医である耳鼻咽喉科医（補聴器相談医）の診断を受けましょう。

(2) 契約前に自分に合った機器かどうかしっかり確認する

補聴器は、自分の使用環境を踏まえたフィッティングや使い心地、メンテナンスのしやすさなどを確認する必要があります。また、自ら出向いた店舗購入や通信販売の場合は、特定商取引法によるクーリング・オフは適用されません。信頼できる販売店で、試用により効果を実感・納得して購入しましょう。

(3) 1人で決めず、できるだけ周囲にも協力を求める

自分に合った機器を選ぶためには、販売事業者とのコミュニケーションも重要です。補聴器を必要とする消費者は「聞こえ」が十分ではないので、販売事業者とのコミュニケーションが取りにくいことが考えられます。店舗でも自宅でも、商品選択や契約の際は、できるだけ家族など周囲の人にサポートを求めましょう。

(4) 通信販売では、事前に試用できないリスクや詐欺サイトに注意する

通信販売では、使ってみたら合わなかったが返品できない、返品できる場合でも電話がつかないといった相談が見られます。事前に試すことができない通信販売などでは、購入後のお試し期間はあるか、お試し期間内で自分の聞こえをどのくらい補聴できるか、装着感や使い勝手は満足できるか、満足できなかった場合の返品条件はどのようになっているかを確認し、リスクを踏まえて慎重に判断しましょう。また、注文して支払ったが商品が届かないといった詐欺サイトが疑われる相談が見られます。

少しでも不安を感じたら、個人情報・クレジットカード番号等の入力、代金の振り込みなどは絶対にしないでください。

(5) 使用時の紛失にも注意する

新型コロナウイルス感染症の影響でマスクをする機会が増えていますが、「マスクを外すときに補聴器が外れて紛失した」という事例が見られます。必要に応じて落下防止用ストラップの利用や紛失補償を検討するなど、紛失にも気を付けましょう。

Q8. 聞こえの状態をアセスメントする方法はありますか？(資料1)

A. 難聴障害度質問票短縮版(HHIE-S)は、主観的な聞こえに関するハンディキャップを調べる検査です。

人との関わりや気持ちの面に関する質問項目を含むため、閉じこもりや孤立といった社会的フレイルに対して、聞こえの悪さが悪影響を及ぼしている可能性を検討できます。

加齢性難聴は自分でも気づきにくいことがあるため、周囲の評価に比べて自己の難聴へのハンディキャップ感が乏しい場合もあります。しかし、明らかに本人と周囲の評価にギャップが見られる場合には、認知機能低下により自分の置かれた状況が判断できていない可能性が考えられます。アセスメントの点数から、10点以上であれば「早めに耳鼻咽喉科を受診する」ことが勧められます。4~8点であれば「耳鼻咽喉科にて聴力検査を行う」ことが勧められます。0~2点であれば「定期的に聞こえをチェックする」ように促します。

Q9. 生活場面での聞こえの状態を探る方法はありますか？

A. 具体的な出来事を想定した質問を用いて、本人の難聴に関するおおまかな自覚度を評価します。

難聴が疑わしくても、本人が聞こえにくさに気付いていない場合は、「□はい」の項目を用いて、本人が自覚していない潜在的な難聴の存在を評価します。

また、本人が自覚していなくても、同居家族など身近な人から、聞こえに関する情報を収集することも有益です。

質問例)「耳の聞こえが不自由に感じることはありますか？」

□いいえ

→会話時に聞こえの問題は認められず、身近な家族からも指摘されていない

→会話時に聞こえの問題が疑われ、身近な家族からも指摘されている (「はい」項目へ)

□はい

場所

□ 人ごみなど騒がしい環境で、数名で話す時に、聞き取りにくいですか？(軽度~)

□ 静かなところで、一対一で話す時に、聞き取りにくいですか？(中等度~)

人

□ 小さい声で、早口で話された時に、聞き取りにくいですか？(軽度~)

□ 大きめの声で、ゆっくり話された時に、聞き取りにくいですか？(中等度~)

環境音

□ 電話の声や普通の大きさのテレビの音が、聞き取りにくいですか？

□ 体温計のピピッという音や後ろから走ってくる車の音が、聞き取りにくいですか？

心理

□ 聞こえにくいことで、人と話すのを控えることはありますか？

□ 少し頼みにくいけど、会話する時に配慮してもらいたいことはありますか？

※静かな場所に移る、ゆっくり区切って話す、聞こえにくい時に繰り返してくれる

Q10. すでに補聴器を持っている方にはどんなことを聞きますか？

A. 補聴器を持っている場合、内容の把握をしましょう。聞こえの状態は、時間の経過と共に変化していくため、補聴器を装着してもうまくコミュニケーションが図れない場合には、耳鼻咽喉科を受診する必要があります。

作成する際には、耳鼻咽喉科を受診し、紹介状をもらって、補聴器認定技能者の所属する場所で作成することが推奨されます。

特に高齢者になると難聴であることの問題とともに「高齢である」ことの様々な問題も併せ持つようになりますので、補聴器の管理の不十分さや紛失の可能性も考慮して対応することが肝要です。

質問例)「普段、補聴器は使っていますか？」

いいえ

→使っていない理由はありますか？

※付けているのがわずらわしい、新聞紙や水道の音がうるさく感じる、頭が痛くなる、ピーピーと音がする、ことばがはっきり聞こえない、スイッチや電池交換、装着がうまくできないなど

はい

→補聴器はいつ購入しましたか？ ()

→補聴器はどんな時に使いますか？ ()

→補聴器についてお困りのことはありますか？ ()

Q11. 難聴者(補聴器装用者)に、一度で聴き取ってもらうためには？(資料2)

A. 難聴者にとって、ありがたい配慮は、「聞き取りやすい場所で話せること」、「目からの情報を活用してもらえること」、「話し方を工夫してもらえること」です。

特に、加齢性難聴は、前述のように「聞こえているけど、何と言っているか分からない」のが特徴であり、音が小さく聞こえ、さらに歪んで聞こえてしまうため、ことばの聞き取りが難しくなります。

そのため、「騒がしい場所」や「長い早口な文章」といった聞き取りが苦手です。

さらに、快適に聞こえる範囲が狭まってしまうため、小さい音は聞こえない割に、大きい音はうるさく感じてしまいます。

そのため、「耳元での大きすぎる声」は、かえって響いて聞こえにくいです。難聴が重度化すると、話しことばでの意思疎通が難しくなるので、筆談やジェスチャーなど話しことばに限らないコミュニケーションの方法を用いることも非常に有効ですが、周囲が筆談を取り入れることに抵抗がある場合は、予定や約束事など大事な用件だけでも使うなど、段階的な獲得が有効と考えます。

そして、高齢によるその他の特徴も配慮するためには、一度に多くのことは伝えず、シンプルに説明して、本人の発話の様子から、どのくらい内容が理解出来たか判断し、必要に応じて補うことが大切です。

Q12. 補聴器に興味を持った方に何を伝えたいですか？

A. 補聴器は医療機器のため、補聴器の購入を検討している場合は、補聴器をつけて良い耳の状態を確認するために、補聴器相談医の活用が勧められます。

日本補聴器販売店協会のガイドラインでは、禁忌 8 項目（耳の手術を受けたことがある、最近 3 ヶ月以内に耳漏があった、最近 2 ヶ月以内に聴力が低下した、最近 1 ヶ月以内に急に耳鳴りが大きくなった、外耳道に痛みまたは、かゆみがある、耳垢が多たまっている、聴力測定の結果、平均聴力の左右差が 25dB 以上ある、聴力測定の結果、500、1,000、2,000Hz の聴力に 20dB 以上の気骨導差があるなど）が設けられています。

適切な評価を行える販売店では、このような禁忌に触れる可能性がある場合、まずは補聴器相談医に診断して頂くようアドバイスします。

●補聴器(ほちょうき)相談医(そうだんい)とは

難聴の患者さんそれぞれの障がいに対応して、機能、価格などで合理的な補聴器利用ができるよう活動します。補聴器相談医は聞こえが不自由に感じるようになった人に対して、耳の状態を診察し聴力検査を行い、難聴の種類を診断します。

治せる難聴に対しては治療を行い、治せない難聴に対しては真に補聴器が必要なかどうかを診断し、必要があれば専門の補聴器販売店を紹介し、連携してその人に合った補聴器を選びます。もちろん、補聴器が適正に選択調整されているかを判断し、販売が適正に行われているかを判断し、疑問があれば販売店を指導します。

また、補聴器が決まった後も、聴力が悪くなっていないかの経過観察を行い、適切な補聴器の使い方の指導も行っていきます。お近くの補聴器相談医を知りたい場合は、「いわき市 補聴器相談医」と検索し、対象者に情報提供してみましよう。

Q13. 補聴器の購入を決めた方に伝えておくことはありますか？

A. 認定補聴器技能者の所属している店舗において、適切な客観的評価（純音聴力検査、語音聴力検査、効果測定など）を行っていただき、補聴器の効果と限界を理解した上で、使用目的にあった価格帯のものを、十分な視聴期間を設けた上で、専門的に調整（フィッティング）してもらうことが奨励されます。適切なフォローが提供された場合の方が、継続率や満足度が高い傾向にあります。

また、トラブルを防ぐためにも、お店に行くときは、ご高齢の方ほど、ご家族や周りにいる方に同伴していただくことが奨励されます。特に購入決定時の約束事や注意点について、一緒に説明を聞いていただく方がトラブルも少ないと考えられます。

●認定(にんてい)補聴器(ほちょうき)技能者(ぎのうしゃ)とは

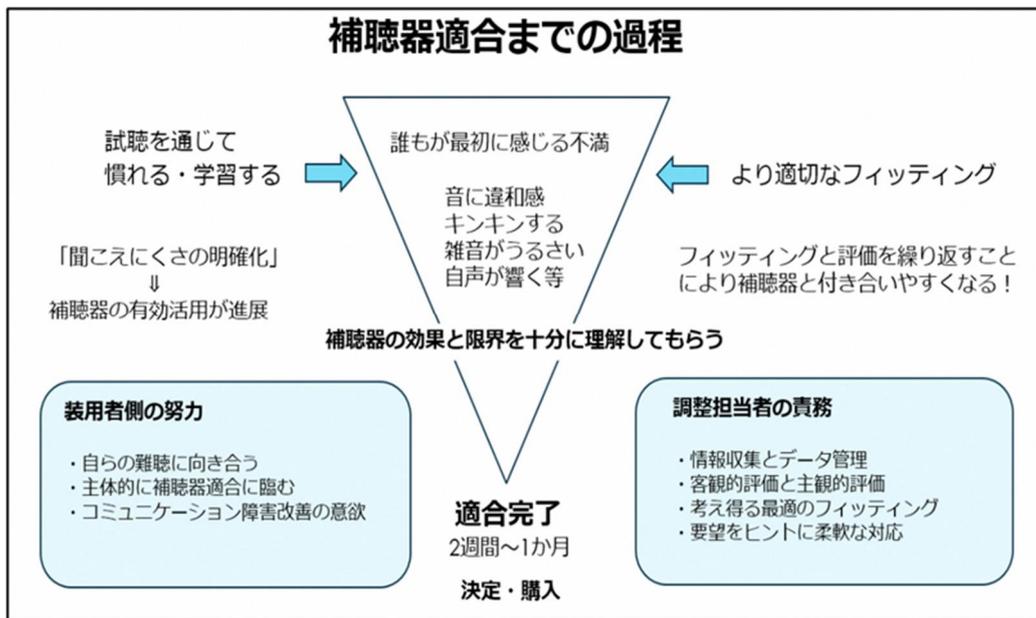
補聴器の販売や調整などに携わる者に対し、基準以上の知識や技能を持つことを認定して付与する補聴器専門の資格です。試験は、公益財団法人テクノエイド協会の元に行われ、難聴者への補聴器の適切な供給に役立つことを目的としています。資格取得には最短でも 4 年必要で、耳鼻科との連携も必要です。

お近くの認定補聴器技能者が所属する販売店を知りたい場合は、「いわき市 認定補聴器技能者」と検索し、対象者に情報提供してみましよう。

Q14. 補聴器を実際に使いこなすまでにはどのくらいの期間が必要ですか？

A. 補聴器をつけて久しぶりに音が入ると、はじめは、うるさく感じて、その時点であきらめてしまう方もいらっしゃると思います。補聴器を日常的な使用に繋げるためには少なくとも 2 週間～1 ヶ月程度の期間が必要とされています。補聴器は、「わずらわしい」、「違和感がある」など満足度低下や、「補聴器は騒音下では役に立たない」、「補聴器を使用しても元の聞こえには戻らない」など理解不足が原因になって、日常的な使用に至っていないという報告もあります。しかし、装用時間が長くなってくれば、様々な場所や状況で聴くことになるので、着けた時と着けないときの違いが理解できるようになり問題点もわかってきます。その過程で、補聴器の効果と限界を十分に理解してもらうことが大切になってきます。

このように、補聴器の適合と決定に至るまでには様々な困難もありますが、自らの難聴に向き合い、主体的に補聴器適合に向き合う姿勢を持ち、補聴器と上手に付き合うことが出来れば、高齢期を豊かに過ごすための手助けになります。



Q15. 補聴器購入に関する福祉制度はありますか？

A. 聴覚に一定以上の障がいがある方は、身体障害者手帳の交付を受けることにより、障害者総合支援法の補装具費用の一部が支給される場合があります。

申請先は各市区町村の福祉窓口（地区保健福祉センター）で、指定された医師の意見書が必要です。

聴覚障害者手帳の基準		
6級	両耳の平均聴力レベル 70dB以上	一側耳の平均聴力レベル90dB以上および他側耳50dB以上
4級	両耳の平均聴力レベル 80dB以上	両耳の語音明瞭度 50%以下
3級	両耳の平均聴力レベル90dB以上	
2級	両耳の平均聴力レベル100dB以上	
障害等級と上限額		
等級	補聴器	上限額
6級・4級	高度難聴用ポケット型	34,200円
	高度難聴用耳かけ型	43,900円
3級・2級	重度難聴用ポケット型	55,800円
	重度難聴用耳かけ型	67,300円
共通	イヤモールド	9,000円
特別に認められた場合	耳あな型(レディメイド)	87,000円
	耳あな型(オーダーメイド)	137,000円

Memo アフターコロナにおけるコミュニケーション

コロナ禍により以前よりも他者との交流の機会が減少した方は少なくないと思います。アフターコロナに転換した2023年以降、一度、希薄になったコミュニティを以前と同じような状態に戻すのは容易なことではありません。人との交流の機会が減少してしまうと、社会的孤立や閉じこもりが起きやすいため、社会とのつながりを保つことはフレイル予防に非常に大切な要素であるといえます。

社会的活動には、ことばによるコミュニケーションが介在するため、コミュニケーションにハンディキャップを持った方には、見えないハードルがいくつもあります。例えば、難聴の方にとって感染対策のためのマスクは、口元や表情が読み取りにくく、聞き取りを阻害する要因の一つです。もし、難聴の方が困っていたら、筆談、指さし、ジェスチャーなど視覚的情報を意識して使うことで、本人が話しやすい環境を整え、反応を引き出すことに繋がる可能性があります。例えば、小さいホワイトボードやノートに、会話の要点や出来事を書いて伝えると、難聴を持つ方にとって、会話に参加する糸口になると思います。さらに、手元に何かに書いてあれば、少し認知機能が低下した方にとって思い出すヒントになり安心です。

このように、聞こえの問題は、補聴器だけではなく、周囲の関わりによっても補うことが出来ます。そして、コミュニケーションが取れることにより、充実感や安心感など本人の気持ちにも良い影響を与えます。その結果、グループ活動への積極的な参加や円滑な人間関係の構築など快適な社会生活の貢献に繋がると考えられます。聞こえにやさしい街づくりのために、それぞれの立場で出来ることを行っていきましょう。



(参考・引用)

- 1) 2017年社会保障・人口問題基本調査 生活と支え合いに関する調査報告書, 国立社会保障・人口問題研究所.
- 2) 第9次いわき市高齢者保健福祉計画(2021~2023年度), いわき市
- 3) 中高年者の知能の加齢変化, 西田裕紀子, 第21回中部老年期認知症研究会.
- 4) 全国高齢難聴者数推計と10年後の年齢別難聴発症率—老化に関する長期縦断疫学研究(NILS-LSA)より—, 内田育恵, 日老医誌2012.
- 5) 高齢者介護のための聞こえの基礎知識と補聴器装用, 公益財団法人日本テクノエイド協会.
- 6) 補聴器トラブルを防ぎましょう!
(2021年2月25日報道発表資料) 独立行政法人国民生活センター.
(https://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20210225_1.pdf)

日付： 年 月 日

氏名： _____

難聴障害度質問票 短縮版

	はい	時々	いいえ
1 初対面の人と会うとき、聞こえないことで気まずい思いをしたことがありますか？			
2 家族と話をするとき、聞こえないことでストレスを感じますか？			
3 小声で話しかけられると、聞き取りにくいことがありますか？			
4 聞こえないことで、不利益があると感ずることがありますか？			
5 友人や親類、近所の人と話をするとき、聞き取れなくて困ることがありますか？			
6 よく聞こえないために、集会や会合への出席をためらうことがありますか？			
7 聞こえないことで、家族と口論になることがありますか？			
8 ラジオやテレビの音が聞き取りにくいことがありますか？			
9 聞こえないことで、やりたいことが十分にできないと感じますか？			
10 レストランなどで、話し声が聞き取れないと感じることがありますか？			
	×4 = 点	×2 = 点	×0 = 点

「はい」は4点、「ときどき」は2点、「いいえ」は0点

10点以上：軽・中等度難聴 24点以上：重度難聴の可能性

総得点 _____ 点

ありがたい配慮について



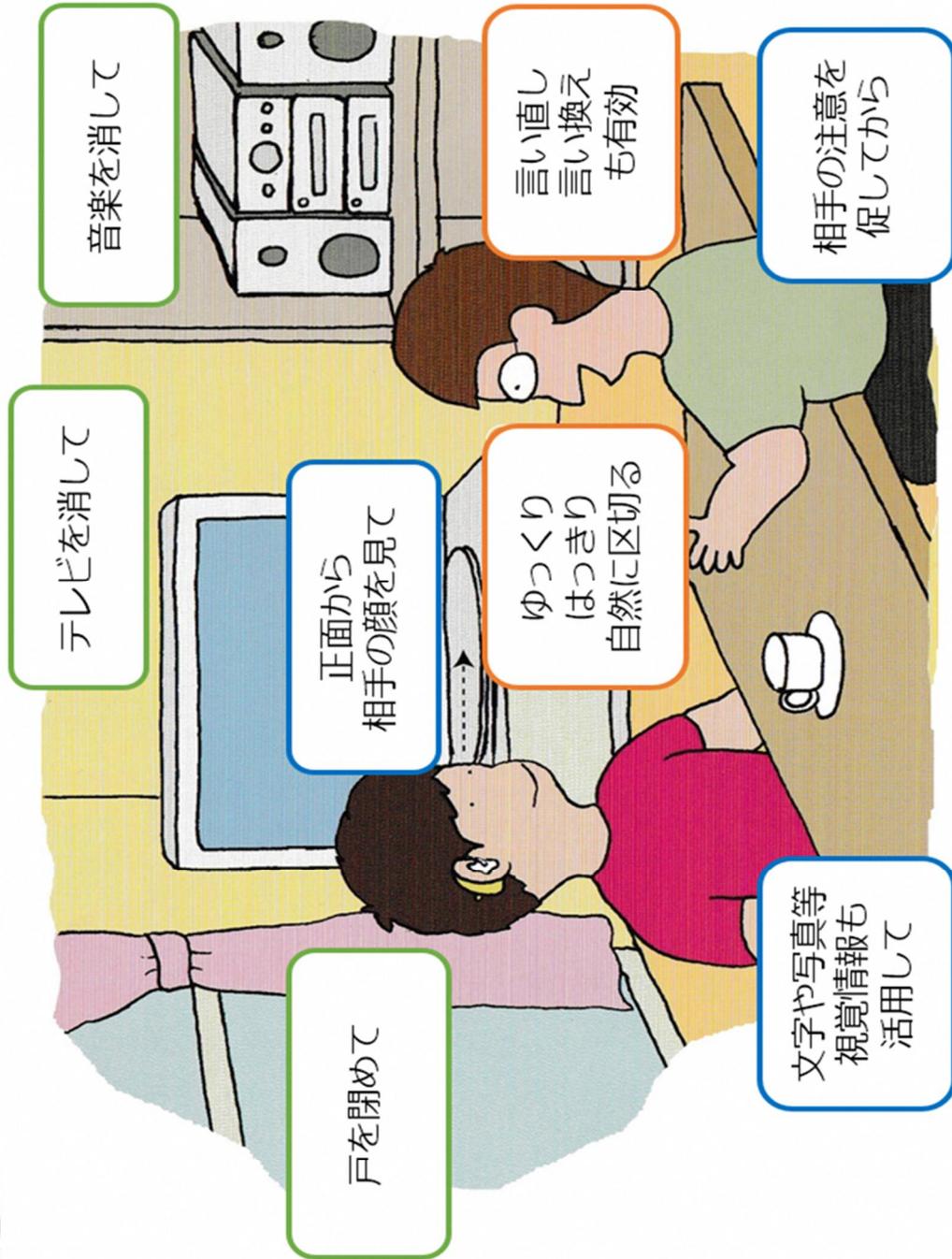
感音難聴の場合

加齢性難聴の聞こえの特徴は
小さく感じ歪んで聞こえる



加齢性難聴の聞こえの特徴は
耳元での大きい声は

かえって響いて聞き取りにくい



音楽を消して

テレビを消して

正面から相手の顔を見て

ゆっくりはっきり自然に区切る

言い直し言い換えも有効

相手の注意を促してから

戸を閉めて

文字や写真等視覚情報も活用して

(東京都心身障害者福祉センター資料より一部改訂)